

三条凧合戦情報誌

イカマガジン

創刊号

2024



Take free

六角巻凧発祥之地・新潟県指定無形民俗文化財

三百余年の
ドッグファイト
空中戦

三條 凧合戦

SANJO IKAGASSEN



2024 6/12
土曜日 1日目
日曜日 2日目
三條防災ステーション

9:00 ~ 合戦 ※雨天中止
●凧マルシェ同時開催キッチンカー15台出店
9:00 ~ 開会式
10:00 ~ イベント
13:00 ~ 合戦 ※雨天中止
●三條マルシェ同時開催 ●2日は市役所からシャトルバスが運行します

主催：三條凧協会 共催：三條市 協賛：三條観光協会

後援：三條商工会議所 ㈱三條新聞社 新潟日報社 BSN 新潟放送 UX 新潟テレビ21 NCT ケンオードットコム 一般社団法人燕三條青年会議所 ※順不同



三條凧協会

株式会社 高儀

ラマト工業株式会社

TOYAMA GROUP | 外山産業グループ

きれいな地球で暮らしたい。



02 最高技術賞 野島大義

10 名人揚げ師に今聞いておきたい話



04 大町組景清 悲願の総合優勝

三條越路組 東樹弘

新組インタビュー

12 須藤風屋の事業承継

06 令和4年参戦 越後三條鍛冶集団

PR 新風組募集

07 令和4年参戦 保内植木組

PR 三條風協会パートナー企業募集

08 オリジナルの凧で父娘の空中対決

16 令和6年 三條風協会パートナー企業

PR 三條こども凧合戦

編集後記

最高技術賞 野島大義

令和五年三条風合戦において、大町組景清の初の総合優勝にも寄与し、自らも名人の白法被を羽織った野島大義（ひろよし）さん。二十九歳の若さで三条風合戦におけるこれ以上ない名誉を同時に手にした彼がどのように風に出会い、どんな思いで風とともに成長してきたのか話を聞いた。

「自分の結婚式を開くときに、子供の頃の写真を探したんです。そしたらほとんど写真が法被を着て風の前にいるものばかりなんですよ。物心ついた頃にはすでに風は野島さんにとって身近な存在だった。祖父が清友会の立ち上げメンバーだったこともあり、合戦の当日は朝早くから合戦場に行っている祖父の元へ祖母と二人で向かう。

小さい頃から毎年見に行くほど風合戦が好きだったのかと問うと「合戦に対してはなんの憧れもありませんでした。子供ながらにんだ、あの野蠻な人たちってちょっと一歩引いて見ていました。自分が合戦場に入ることが出来るようになるまでそう思っていましたよ」。あまりのドライな感想に少し面食らってしまった。

祖父に風揚げを教えてもらい、中学にあがるころには大人が合戦で使用す

る三十枚張の風をすでに一人で扱うことができていたという。師匠はもちろんおじいちゃん。しかし、野島さんが選手として所属した組は祖父とは別の組だった。

「風組に入るならおじいちゃんと同じ清友会かなと思っていたんですが、ちよつと色々あってそこには入ることができなかつたんです。それでも風合戦には出たくて、父の知人が大町組にいるということで紹介してもらいました」。

大町組は町内を背景にした組にも関わらず、縁もゆかりも無い野島さんを快く迎え入れてくれたことが嬉しかったと野島さんは回顧する。

そこから十五年、大町組の若手としてチームを盛り上げてきた。大町組は他の組に比べたら少数精鋭だ。持ち前のチームワークと、組の中で合戦での役割をあえて決めないフレキシブルさで令和五年に総合優勝を獲得。その前年に前人未到の十連覇を達成した五月会の十一連覇を阻止し、大町組が新たな記録へのスタートラインに立つことができたという。

そんな野島さんが強い憧れを抱くのは大町組の仲間でも、レジェンドと呼ばれる現役揚げ師でもない。風の師匠でもある自分の祖父、それがそが風で



自分が目指すべき境地だという。風揚げも、凧を作るのも全て祖父が教えてくれた。

「おじいちゃんに凧を教えてもらって、おじいちゃんが平成二年にももらった白法被を自分がもらったことでやっと一人前になった気がするんです。組としての優勝ももちろんですが、白法被はじいちゃんが生きてるうちに欲しかったので念願叶って嬉しいですね」。大町組に行ったのは祖父の本意ではなかったかもしれないが、そこでの活躍や、三条凧協会が名人として認められた証の白法被。引退し、合戦を見にくることのなくなった自分の師匠である祖父に白法被をとったことを報告した時、初めて褒めてもらったそう。まだまだ祖父の背中には遠く及ばないというが、きっとここが野島さんの新たなスタートラインとなるだろう。

組としても個人としてもこれ以上ない賞を手に入れた野島さんに今後の目標を聞いてみた。

「総合優勝できて、白法被ももらったので正直、一区切りついたなって感じです。もちろん連覇はしていきたいので選手としてもまだまだ頑張りますが、もう少し大事にしたいことも増えてきたんですよ」。

大事にしたいこと、それはこの凧合

戦を次世代に残すこと。自分が引退する時まで凧合戦が出来るように。それはあと四十年、五十年先まで見越していることだ。風屋がなくなっているかもしれない、合戦ではなくなった凧揚げ祭りになってくるかもしれない。揚げられる凧がなければ合戦ができないし、相手がいなくても合戦にはならない。凧合戦の関係人口を増やし続け、みんなが共通の課題として捉えていかないと若い子たちに凧合戦をたくたくもさせてあげることができないかもしれない。三条凧協会としてもこの課題は避けて通れない。人口が減っていく未来は必ず訪れるので、地域の伝統行事をどう続けていくのか、どうやったら次世代にバトンを繋げるのか。

野島さんには取材時五ヶ月になる娘さんがいる。二月に前橋市で行われた上州けんか凧の大会の会場で奥様に抱っこされ、凧の関係者のアイドルとなっていた。この小さな子を見ていると野島さんもこうやって合戦場の景色を見て、たくさんの凧の関係者の人たちに可愛がられて大きくなったんだなと思わずにはいられなかった。物心つく前から凧を見上げていた子供たちが数年後、数十年後に合戦場で活躍出来るように野島さんはその土壌を作り上げてくれることだろう。



写真の紹介

- ①平成二年に最高技術賞をとった祖父の野島義保さんと一緒に白法被を着用して記念写真
- ②子供の頃の写真はいつも凧の前。若かりし頃の祖父義保さんと赤ちゃんの時の野島大義さん
- ③令和五年 三条凧合戦において、最高技術賞を受賞した時の模様
- ④ご家族でインタビューをうける野島さんと妻の千香子さん、長女の清李ちゃん



悲願の総合優勝

令和五年三条凧合戦、総合優勝を果たした大町組景清。東三条五月会の一連覇を阻止し、初の総合優勝を収めることのできた経緯や今後の展望を大町組の皆さんに話を聞いた。

―では山本さんにお伺いします。優勝インタビューで涙されていました、そのくらいの悲願だったってことですよね？

山本さん あれにはちょっと裏話がある、ZOKIの味田さんと合戦の一、二週間くらい前にたまたまスーパーで会ったんだよね。その時に「今年はテレビも復活しますんで是非、優勝してください」と言われたんだけど、嵐南も復活してまた合戦に出てくるし、組み分けがもう出たし、なかなか厳しいだろうなって。でも、応援を無下にもできないしまあ頑張りますねって話してたの。それで、いざ総合優勝になった時にはじめに代表がインタビューを受けて、次に俺のとこ来たら味田さんが涙を流してたんだよね。それを見てもらい泣きしてしまったの。

令和四年の合戦はコロナで中止してから三年ぶりの開催で、マスクしながらやってたよね。その時は組優勝だったけど、今年はようやく総合優勝。本

当にいいチームワークで五月会を倒せたのが何より嬉しいね。組の中ではずっと野島とかにも絶対に倒せる！って言い続けてた。五月会が五連覇くらいしてる時から言ってたから、悲願成就だよ。

―組として大事にしてる理念みたいのってあるんですか？

山本さん チームワークだね。凧直した後もみんなで楽しく酒飲んで、凧の話したり。まあ、凧だけに限らずいろんな話をするね。最年少は二十一歳、最年長が七十七歳。年齢の幅がだいぶあるけど、凧以外の話も結構盛り上がるんだよ。みんなが多趣味だから。

直し終わった後にみんなが持ち寄った話でコミュニケーション取ってるのがすごい良い作用を起こしてるんじゃないかなって思う。

窪沢さん 新しいルールになって他の組がなかなか対応できてないのかもしれないけど、うちのチームは特段変えたことはないよ。元々、そんなに大所帯でもないし。

―そんなに人数の多いチームではないんですか？

山本さん 十二人くらいじゃないから、他のチームからしたら少ないかもね。

皆川さん その分、コミュニケーション

ンが密に取りやすいのかもしれない。
阿吽の呼吸ができるっていうか。

—このチームだからできる戦略みたいのってあるんですか？

皆川さん 皆んなが先を読んで行動してるんだろね。誰が何をやるって役をうちの組では厳密に決めてないからね。そこはあえて決めていない。例えば風が落ちれば、揚げてたもんが取りに行ったり、手が空いてるのが取りに行ったり、今、風が揚がってないから誰か揚げて持っていこうか。

山本さん うちの基本、誰でも揚げられる。特に誰が籠持ち、誰が揚げ師とかは決めてない。基本は俺と野島がやってくるように周りからは見えてるだろうけど、みんな揚げられる。それは役割を特に決めてなくても皆んなが自分が今、何をやれば良いのかを自覚してやっていて、それがうまく回るんだろね。

—あえて役割を決めてないのは、なぜですか？

皆川さん 役割決めすぎると面白くないじゃん。風合戦だから合戦しに来てるのに、籠持ちだけとか予備場ですつと風揚げるだけとかつまらないでしょ。そんなことばかりしてたら風やっても面白くないからって来なくなっちゃおうね。やっぱり合戦してこそだ

から、みんなが出て楽しむにはそのほうが良いんだよ。

—今回、優勝取れた要因みたいなのってあるんですか？

山本さん やることを変えてないから特に何をしたわけでもないけど、一年から合戦数と勝率とか出してるでしょ？あれに切断率があれば大町はダントツで一位になってるね。狙って切ってるわけじゃないし、全部タイミングよく切れるわけじゃないけど切ってる回数はダントツだと思うよ。それを積み重ねられたのは大きいかな。あとは皆んなが最後まで諦めなかったからだね。よくあることなんだけど、大



町は初日で一位だと二日目ダメになることが何回あるんだわ。初日、抜群に良くて、それが日曜になるとバタバタと追い抜かれて。やることは変わってないけど五月会に勝てるって意識だけが変わったのかもね。

—ずっと総合優勝を狙ってたのに兄弟組を受けてくれたわけじゃないですか。その理由って何かあるんですか？

山本さん 協会としてそういう制度ができて、話が来たからには断る理由もないからね。他の組もやってくるわけだし。逆に仲間ができた感じだね。

蕨沢さん 一生懸命やってくれてるしね。修理の時にはこの風部屋でみんなでちゃんと集まってやってるよ。

山本さん 逆に白朗ってチームは自分で事業してる人ばかりだから、みんな忙しくて大変だろうなって思うね。一生懸命やれば強くなれるチームだと思うし、大町が総合優勝取ったのと同じ年に野島は白法被、白朗は優秀組賞に選ばれて兄弟組でトリプル受賞できたのは嬉しかったね。

—今年は追われる立場になりますけど意気込みはありますか？

山本さん 連覇。やることを変えなくても勝てるのもわかったし。そこで強いチームがいて負けたなっていうことはあるかもしれないけど、さっき言ったみ

たいに特に変えることなくやっていきたいね。誰かが十連覇したってことは自分たちにも不可能ではないってことだからね。その挑戦権を獲得したから、一步一步積み重ねていきたいね。



写真の紹介

- ① 令和五年悲願の総合優勝を果たした大町組景清のメンバー
- ② 大町組景清の看板揚げ師で中心的組員の山本浩司さん
- ③ 少数精鋭の大町組の組員。左から石崎順一さん、皆川義文さん、蕨沢勝さん（組長・代表）

新組インタビュー 令和4年参戦 越後三条鍛冶集団

三条風はやしの一節に「鍛冶屋の小僧」という言葉が出てくる程に三条の産業を担い続ける鍛冶屋。三条六角巻風と切っても切れない関係にある鍛冶屋で構成される風組「越後鍛冶集団」組頭である曾根忠幸さん、組員である丸山幹生さんに話を聞いた。

―新組として参加された理由を教えてください。



曾根さん 結城副会長に「鍛冶屋の風

組があった方がいいよね？」って誘われて確かにそうだよなって思ってた。

三条風はやしの歌にも鍛冶屋が出てくるくらい、三条のルーツなのは間違いないから、それを由来にする組がないのは、ちょっと悲しいなと思って。だったらもう俺が作るしかねえなと思って作りました。

―曾根さん自身は小さい頃から風をやってたわけじゃないですよ？

曾根さん 全然やってないね。でも、なぜか風はやしの歌が好きだった。なんで好きかはわからないけど歌詞を全部覚えてるもん。

でも今から十年くらい前に合戦を見に行ったことがあって「あーこれは出ないほうがいいな」って思ったね。なんだこのガラの悪い人たちって。子供に見せられるもんじゃないなって思うくらいダメだと思っただのを覚えてる。―そこから実際にやってみてどうですか？

曾根さん 今の協会メンバーがルール改正をしてくれたのは大きいよね。多分、うちの組も他の組もそうだけど前のルールだったら出来てない。一日ずつと合戦をするとか、合戦場に入れる人数も持ち込める風の枚数も制限なしとか。それだと新しい組はどうやっても対抗できない。

新組が参入しやすいルールになったから参加しようと思ったし、参加してもちゃんと形にはなってるかなって思います。

―曾根さんから見た兄弟組の越路組ってどんな感じですか？

曾根さん 越路も年上の世代と、今の組頭の鉄平さん達の世代でちょうど変わりつつあるタイミング。やっぱり鉄平さん一人じゃ勝てないし、他の人たちももっと強くなないと勝てないんだなっていうのはすごく思うので、鉄平さんも苦労しているのが見える。そんな中、兄弟組として教えてもらえるのはすごくありがたいし、世代交代って常に必要なんだなっていうのは越路を見ててもすごく思う。

―鍛冶組の組員同士の関係ってどうですか？

曾根さん とにかく仲がいい。他の会社に行った時に鍛冶組の子が多いのと前よりコミュニケーションが生まれやすいね。社長同士は知ってても社員さんまで知らなかったから、行ったら挨拶したりするし顔見知りになったら、すごく仕事がやりやすい。

―丸山さんの鍛冶集団に入った経緯は社長の曾根さんから誘われてですか？

丸山さん 社長に誘ってもらったものもありますし、元々、越路の戸田鉄平さ

んとよく遊んでたんです。越路が兄弟組になるなら是非！って感じでした。―元々何がキッカケで鉄平さんの知り合いだったんですか？

丸山さん チャリです。ピストバイクを持って、それで一緒にツーリングに行ったりとか。

実は六年くらい前に鉄平さんに越路組に誘われたんですけど、その時はお断りしてしまった経緯もあったので同じ組ではないけれど、一緒に風ができて嬉しいです。

やってみたらとても面白くて、こんなに色んな年代の人が本気になってるのがすごいなって思います。

―M30賞を受賞されましたけど、取れたポイントってどこですか？

丸山さん とにかく走りましたね。鉄平さんや社長にも、とにかく走れ！って言われて。風がある時は誰でも揚げるから、風のない時がチャンスだからとにかく走ってでも揚げるって。M30取れた時、とにかく目立ってなほだっと思ってました。

―ちなみにタダフサで職人になって何年くらいですか？職人としての目標もお聞きしたいです。

丸山さん 十年くらいです。今は磨きだけやってるんですけど、いつか自分だけの包丁を一丁作ってみたいです。

新組インタビュー 令和4年参戦 保内植木組

保内は造園業で栄えた地域で、金属加工の街とは違った産業を形成している。組員のほとんどが造園業を営む「保内植木組」がなぜ三条凧合戦に参加したのか協会役員の吉川敬之さんに話を聞いた。

―保内植木組を作って三条凧合戦に参加した理由を教えてください。

吉川さん 結城君に誘われたのは大きかったね。でも単純に、俺自身が面白そうだなと思っていた。凧に縁もゆかりもない保内地域で未経験者ばかりでもないの？とは思ったけど。

―保内地域って凧合戦に馴染みあったんですか？

吉川さん 全くと言っていいほどないよ。多分、一人、二人くらいしか関わってないかもしれないね。私が知らないだけかもしれないけど、そんなに多くないはず。

―馴染みのなかった凧合戦に参加してみても率直な感想はいかがですか？

吉川さん 面白い。ただ面白いだけでなく勝てないんだよね。上手に揚げられないからまだ悔しい気持ちの方が

大きいかもしれない。

でも勝てない要因はわかって、凧のセッティングがままならないのと練習不足。これに尽きるんだよね。

―でも保内の人たちの凧系の扱いや結び方を覚える早さはさすがだなと思って感じていますよ。

吉川さん いや、そんなことないけどね。この間、前橋で凧揚げした時もあったけど、五月会の味田さんや大町の山本さんなんて別格じゃない？そんな彼らの揚げている姿を見て、こうやると揚げやすいんだなっていうのを見ていて勉強になるし、単純にかっこいいよね。あのレベルまでは出来ないかもしれないけど、今よりは上手に揚げられるようになりたいね。

―植木もこの地域の伝統産業だと思うんですが、三条の凧と通じる部分ってありますか？

吉川さん 今の三条凧協会はしっかりとした組織運営をしているから、うちら植木屋も勉強になっている。三条凧協会は凧合戦を後世に残していくっていう明確な目的があるでしょ？保内にも植木組合って組合があるけど、仕方なくやってる感じの人も多いし、若者の意見なんて全く聞く耳もたれないの。そこについていけない若者が困惑しているのは確かで、だから凧協会と



は真逆だね。

―凧協会はどっちかというところ、若い人たちが活躍していますよね。

吉川さん 自分たちの植木組合もそうやっていきたいと思うから、凧協会にいい環境になる。若手が意見を言い合えるいい環境だし新しいことに果敢にチャレンジしているし、今後もっと大きいことをやってほしいなと思ってる。

―清正組と兄弟組ですが兄弟組の制度はどうですか？

吉川さん 兄弟組は非常にありがたかったな。制度の期間って決まっても兄弟組の間で可能であれば継続してい

いでしょ？うちは清正組とは切り離すことなく、今後ともお付き合いしたいなって思っているね。

―やっぱり凧の修理とか自分たちでできないから、そこを一緒にできるのはありがたいね。

―ライバルだなと思う凧組はありますか？

吉川さん 同期組だね。鍛冶集団、下田鈴羊会、愛粋組、福ノ島が同期になるんだけど、鍛冶集団は若手もたくさんいるから羨ましいよね。

あ！白朗会っていうライバルがいた。秋の新人戦で糸を切られて三点も取られたから次は白朗会だけは負けたくないね。

―最後にお伺いしますが、植木組の今後の目標などありますか？

吉川さん 何か賞を取りたいね。何でもいいよ、凧協会の何かの賞をもらいたい。別に総合優勝だけじゃなくて、名誉ある賞をもらいたいか。同期組も後輩組も協会から賞もらってるから植木組でも何かしらの賞をとりたいと思ってます。

写真の紹介

- ① 越後三条鍛冶集団の曾根忠幸代表と丸山幹生さん
- ② 保内植木組の吉川敬之さん



オリジナルの凧で 父娘の空中対決

「三条市の凧合戦でララちゃんの凧をあげて、お父さんの凧と戦いたい」そんな夢を「ララゆめく〜ララちゃんが夢をおてつだいします〜」の企画で叶えた永井彩晴（あやは）さん。どうして凧を揚げてみたかったのか、どうしてお父さんと戦ってみたかったのかをお父さんの越路組永井一俊さんと一緒に話を聞いた。

— 彩晴さんは今、何年生ですか？

彩晴さん 小学校四年生で十歳です。

— この夢を叶える企画に応募したキッカケを教えてください。

彩晴さん 私が小さい頃からお父さんが凧合戦に出ていて、そこで自分が描いた凧とお父さんが揚げた凧で対戦してみたくて応募しました。遊びに行っていた時に応募用紙に「あなたの夢を叶えます」って書いてあって面白そうだなと思って五月くらいに応募しました。— なぜお父さんと凧で対戦してみたかったの？

彩晴さん 凧合戦は、小さい頃から見ました。いつも優しいお父さんが、大きい声を出しているのがいつもと違って面白かったです。

一俊さん それこそ二歳くらいからずっと奥さんが連れて来てくれていましたね。彩晴の兄と姉はあまり興味を示さなかったんですが、この子だけはずっと見に来てくれますね。

— この凧の絵は一人で描いたの？

一俊さん 元々ノートくらいの紙に描いた下書きがあったんです。それをもとに須藤さんに下絵を描いてもらうことになっていましたんですけど、あとは塗るだけの状態で見させてもらったら下書きに忠実に書かれていて、最終的に下書きがそのまま凧になった感じでした。ちゃんと合戦できるように三十枚張なので相当大変だったと思います。

— この絵で伝えたかったメッセージってどんなものですか？

彩晴さん 手を繋いでいるのが私とララちゃんです。下には地球があつて、地球に住むみんなが仲良くできたら良いなって思いで描きました。

— それが空に揚がったのをみんなに見てもらえるようになってことだね。色塗りは難しかったですか？

彩晴さん 筆の大きさが学校で使っているのと全然違って、塗るところが多い場所はハケみたいなので塗ったり、小さいところだと習字の細い筆みたいなので塗るのが難しかったです。紙の厚いところが色が濃くなったりして塗り

方を工夫するのも大変でした。

「これだけ大きい凧に塗るのは相当時間かかりそうですね」

一俊さん ほぼ一人で塗っていたので半日くらいかかっていますね。塗り方だけ教えてもらってあとは黙々と塗っていたみたいです。

「特に頑張ったところはどこですか？」
彩晴さん 地球のところ。青のところはたくさん塗らなきゃいけないで大変でした。あとララちゃんの尻尾のところは下書きの時は薄いピンク一色だったけど、本物にもっと近づけたくて濃いピンクを上から塗って色の違いを出したところです。

「自分でデザインした凧を揚げて、お父さんと合戦をしてみようとした？」
彩晴さん 自分の凧でお父さんに勝たのは嬉しかった。お父さんの凧の糸を切って三点取ることもできたのはびっくりしました。学校の授業でみんな

で凧糸を引っ張ったことはあったけど今回は一人。凧糸を引っ張るのが大変だったけどとても楽しかったです。

「お父さんとしては実際、娘さんの手がけた凧と直接対決でしたが、負けた悔しさはありますか？」

一俊さん 負けて悔しいとかはないですが、感慨深いですね。でも当日は言

われるがままこっちで写真撮って、こっちでインタビュしてみたいな感じで相当バタバタで。いつもの合戦なら

越路の裏方で準備したりとか、次のこの凧で戦おうよとかいろいろやるんですけど、それが全くできないくらい慌ただしくて。その場ではなかなか感動を噛み締めることはできなかったです笑。

「彩晴さんは大きくなったら凧組に入りたいですか？お父さんと同じ組？」

彩晴さん 今はまだわからないけど、もう少し大きくなったらやりたい。入るなら小町会が良いな。みんな女の子なので。

「大きくなったらまた一緒に凧合戦をやりたいですか？」

一俊さん そうですね。また一緒にやりたいなと思います。進学とか就職で三条にいないとことがあるだろうし、それまで本人が興味持っていてくれれば嬉しいですけど。同じ組の鉄平がそうだったみたいに、六月の合戦になったら帰省してくれば参加もできるからそれも良いのかなって。でも越路組に入ったら一緒に合戦場にいることはできるけど、対決することはできないですもんね。越路は昔からチームに女性がないので入ったらきつとみんなに可愛がってもらえる存在になると思っています。

毎年「秋」の合戦で開催中

対象 10歳～15歳の小中学生

費用 無料 ケガなどに対応する保険へ加入しています

参加お問い合わせは、三条凧協会 企画広報部まで 080-4057-1012



三條こども凧合戦

揚げ師を募集しています

Check
未経験者
大歓迎

名人揚げ師に 今聞いておきたい話 三条越路組 東樹 弘

三条越路組の立ち上げから携わった東樹弘さん。御年八十八歳とは思えない快活な喋りと、温厚な人柄が印象的だが「越路の鬼の揚げ師」と呼ばれていたとはとても想像し難い。自身の甥である戸田鉄平さんに組頭のバトンを渡し、現役を退いた今もお風合戦のこと、越路組のことを常に考え、勝ちにこだわる姿勢を見せ続ける。

そんな東樹さんの風人生の始まりは昭和二十八年。居島の町内組「だるま組」からスタートする。

「当時、私は居島にいたからそこで組に入ったのがだるま組って名前です。そこで何年もやっただけで、上町組の佐々木さんって人が一緒に組を作らないかって誘ってくれたの。組の名前を考えた時、ちよつと粋な名前にしようって越路ってつけた。でも越路って地名でもあるから間違われないうちに三条って冠つけて昭和五十五年に立ち上げたんだ。」

三条風合戦が田島の土手で開催されていた頃、風が今よりも格段に弱かった。越路組の真価はその風のない日に

こそ発揮される。弱い風でも風がしつかり風を受けて揚がるように風の軽量化に注力したという。六角風を形成する五本の糸の一本の重さですら惜しいと、中糸を抜き四本で風を作った。これはおそろくどこの組もしていない。糸もとにかく細いものを使って軽くすることで風を捉えられる風を作った。

「田島の土手でやってた頃、風の無い時に上がってるのは越路と上町くらいだった。他の組がやっとの思いで揚げてきたのを越路が楽々落とす。あれは揚げ師冥利に尽る」。越路組の組頭戸田さんも当時をそう振り返った。

四十年ほど越路組を第一線で牽引して、カリスマ的な揚げ師だった東樹さん。令和元年に甥っ子である戸田鉄平さんに組頭を委ね、自分は一線から退いた。その年の風合戦で越路組は組優勝を飾り、戸田さんは最高技術賞に贈られる白法被を手にした。まさに世代交代だ。

自らの技術の継承だけでなく、組の引率者として鉄平は本当にたいしたものだ！と東樹さんは太鼓判を押す。

三条風協会の取り組みにより、この二年で新しい風の組が十組増えた。三十年近く新組が生まれることはなく、むしろ組員の高齢化や減少によって解散する組が後をたたない状況からの大



写真の紹介

- ①合戦中はいつも空を見上げている東樹さん、名人には風が見えるのかもしれない
- ②居島の町内組「だるま組」で風を揚げる若かりし頃の東樹さん（左）
- ③叔父から甥へ。名人から名人に渡された組頭というバトン。戸田鉄平さん（左）東樹弘さん（右）
- ④当時の写真や資料とともに風合戦への想いを朗らかに語る三条越路組 東樹弘さん



躍進だった。それに伴いルールが大幅に変更された。一回の合戦で合戦場に入れる人数と風の枚数を制限、時間も無制限から制限を設けられた。

この大改訂に不満のある組も多かったが東樹さんはどう思うのか何うと「これはいい制度だよ！」と語気を強めた。

「風合戦はとにかくみんなが楽しくやらないと続かない。それは今ある組だけが楽しんでいてはダメで、どんどん新しい組に入ってきてもらわないといけない。このルールなら新しい組が出てきても活躍できるルールで本当に素晴らしいね。毎年五組増やすなんて私が協会にいた頃には考えられなかった。対外的な発信にも尽力してもらって今の風協会の動きは目を見張るものばかりだよ。私には出来なかったことばかりで感謝しかない。」

自分がワンマンな揚げ師だったと語る東樹さんだが、揚げ師として魅せ続けた背中は大変だ。組の人が予備場でセツトしてくれた風を自分に渡された時のプレッシャーは相当なものだったという。それは合戦の勝ち負けだけのプレッシャーではなく風系に込められた組員の期待へ応えたいというもの。

風合戦は揚げ師が花形とされているが、その風を作り合戦場まで持ってきて

てくれる組の仲間がいるからこそ揚げ師が輝けるんだと東樹さん。せっかく作ってくれた風をすぐに落としたりどうしよう、みんなの思いに添えたい一心で風を揚げ続けた。その背中は越路組だけでなく、他の組の揚げ師たちの憧れにもなった。

【好きこそものの上手なれ】このインタビューの中で何度も風を好きになっしてほしいと東樹さんは語った。上手になるのも、風をやる人が増えるものも、かく好きになってももらわないとダメだと。好きになっただけなら楽しんでやらないうと続かない。

「風合戦は三百年以上続く伝統文化だ。それは誰か一人の努力ではなく、みんなが風合戦を楽しみ、多くの人が風合戦に足を運んでくれる仕組みを作ったこそ、自分たちがこの祭りに参加している意味がある。ただの祭りじゃない、伝統を守り続けるために常に時代にあった風合戦をして欲しいね。」

鬼の揚げ師と言われた東樹さんから出てくる言葉は全て風合戦を想い、今後風合戦を担う人たちへのエールのような優しいものだった。自分の大好きな風合戦を後世に残してほしいという大きな襷が今の風合戦を担うものに渡されたような気がした。



須藤風屋の事業承継

創業百七十七年、三条市で唯一の風屋須藤風屋。三条風合戦で使われる六角風は六代目当主の須藤謙一さんによって生み出されている。

事業承継を経て代々受け継いできた須藤風屋の看板を謙一さん自身がどう思いそれを受け継いだのか、そしてその背中を見て育ったお二人の息子さんにも話を聞いた。

「謙一さんが須藤風屋に入るキッカケは何だったのですか？」

謙一さん 会社員をしながら親父の手伝いはしていました。専門になって継ぐってなったのは親父が亡くなったというのがきっかけですね。ちょうど七年目、五十歳になった頃ですね。うちの親父が常々、「三条の風合戦は風屋の作った風を揚げてこそ三条風合戦だ」と口にしていたのでよく聞いていました。そうやって考えた時には親父やその先代がずっとやってきたのを自分の代で終わらせるのは簡単だけど、それは親父の本意でもないし、須藤家に対してどうなのかなと思ひ、俺がやるのが自然だろうなという流れでやって決めました。

「小さい頃から自分が継がないといけないという感情ってありましたか？」

謙一さん なかったとは言わないですね。ただ、反発はしていました。

「反発していた理由はあるんですか？」

謙一さん やっぱ自分の中では親父は一生懸命やってくれるけど、俺は風屋になるってあんまりなって思ってた時期がありました。周囲からも「跡を継ぐんだろ？」ってあえて言われることはありませんでしたが、継ぐことに関してはかなり後ろ向きでした。私には弟が一人いますが、幼い時に弟へ「風屋はお前が継げよ」みたいなことを言ったことがあると母から聞き出したことがあります。俺は小さくて覚えてないんですが、そんな小さい頃からあまり乗り気でなかったんでしょうね。

「ルールを引かれてるって感じが嫌だったんだと思うんです。結果的に、今となれ継いで良かったと思えますが、その当時はすごく嫌だったというイメージはあったかな。」

「お二人の息子さんにもお話を伺いたいと思うんですが、お二人はおいくつですか？」

光晟さん 二十二歳で会社員をしています。

好崇さん 二十歳で、自分も会社員をしています。

「小さい頃から風にはだいたい馴染みがありますか？」

光晟さん 合戦当日になれば連れてってもらって見に行ってみましたし、合戦が近くなると凧張りなどを手伝っていました。あれをやりだすと今年も始まるなみたいな感じにはなりませんね。
—お父さんが凧屋になりたくないなと思ったように、自分たちも反発みたいなものがありますか？

光晟さん 今かな。今、絶賛そんな感じですよ。

好崇さん 自分たちが継いでる未来が見えないというか。いざ、継ぐってなつてこの仕事が出るのかなつていうのが強いですね。

—でも反発はしているけど、兄弟でお前がやれよ！みたいなことにはならないんですか？

謙一さん ちょっと自意識過剰かもしれませんが、普段、私が仕事している姿を見ているのかは大きいと思います。もちろんダラッとしている時もちろんあるけど、仕事してる脇を通ってるから何してるのかは必ず目に入る。私もそうだったんですよ。親父こついう風に仕事やってるなぐらいしか見てないんで、教えてもらってないこともたくさんあります。

親父が亡くなる前年に初めて骨組みの指導を受けたんです。夏の暑い時期に五十枚張の凧を五枚、お前が

作ってみろって話になって。骨組みのやり方もそこで教えてもらい、作り方もかも教えてもらったんですが、それつきりです。それがなかったら凧屋になつたとしても、どうやって作れば良いんだろつて細かい所はわからなかつたと思います。だから私も自分が生きてるうちに教えていく必要があるんです。やつぱりそこで悔いが残ると思うのですよ。

もつと聞きたいこともあるし、相談したいこともあるのに亡くなつてしまつたら二度と聞くことはできなくて。そういうのがあるから生きてるうちに教えたいなと思うし、画像でも、何でもいいんだけど、後から見てもわかるようなものは残してやらなきゃダメだなというのには常に思ってます。

—残していかないといけないプレッシャーは大きいですね

謙一さん 無くなる時なんてきつと一瞬でなくなつちゃうと思つんですよ。それは須藤凧屋だけじゃなくて三条凧合戦もそう、それぞれが努力してるから続いていくし、今後も残そうつて意識をみんなが持つて一致団結することが必要になる。俺だつて今でもプレッシャーですよ。

—自分たちが継ぐくない関係なく、須藤凧屋はどんな凧屋であつて欲しい

と思いますか？

好崇さん 個人的にはずつと須藤家だけでやってきてるので、須藤家で凧を作るというのを貫いてやっていけたら良いなと思います。伝統工芸品にもなっているのその辺もすっかりやらないとなつて思いはありますね。

光晟さん 須藤凧屋つて名前が無くなつたら、じいちゃんやその上の人たちだつて悲しむというか、自分の家が凧屋じゃなくなるのは嫌だなつて思う。

看板を守るつていうとちよつと仰々しいですけど、無くしちゃいけない場所だと思つています。



写真の紹介

- ①現三条凧協会会長で、須藤凧屋六代目当主の須藤謙一さん（中央）と長男の光晟さん（左）、次男の好崇さん（右）
- ②お父さんのように長男というプレッシャーを背負う光晟さん、現在は市内のパッケージメーカーに勤務
- ③顔立ちや雰囲気がお父さんと似ている次男の好崇さん、現在は市内の金属加工メーカーに勤務

350年続く歴史と伝統の三条イカ合戦

凧チーム 募集中!



あなたも仲間を集めて新しい凧組を作り
三条イカ合戦に参加しませんか？

三条イカ合戦では、毎年6月に開催している350年以上続くこの地域の伝統行事に出場する新しい凧チームを募集しています。10名1組であれば友達同士、地域の仲間、会社サークル、業界仲間、学校、団体など、三条市内外を問わず参加可能。新しい組には「兄弟組」を作り既存の凧組が凧の揚げ方から凧組の運営方法まで手取り足取り優しく教えてくれます！

グループの絆を深め年に1度だけ熱狂できる行事に
あなたも仲間と共に参加しませんか？



女性でも
出場可能!

私たちと一緒にこの先100年と
伝統行事を後世に伝えていきましょう!

条件 10名1組で応募して下さい
男女混合可 市外県外可

費用 お1人¥10,000 (計10万円)
その他合戦出場にかかる費用
は全て協会が負担します。

提供 合戦用 六角巻き凧 3枚
馬籠 / 揚げ糸 3セット
新仕立て法被 10枚

備考 凧揚げ技術などは、兄弟組
制度を設け、既存の凧組が
手取り足取り教えてくれます

自分達の凧組名を決めたり
好きな武者絵を選んだり
法被をデザインしたりできます

随時募集中 / お問い合わせ 080-4057-1012

2022年初出場の燕三条愛粋組と兄弟組としてサポートした東三条五月会



三条凧協会では
スポンサー企業を
募集しています。

皆様からのご寄付は
三条いか合戦の運営と
三条発祥の六角巻凧を
後世に伝えるための
活動に使わせて頂きます。

三条凧合戦

パートナー企業募集!

スポンサー / 1年(年毎更新)

特別協賛 ¥100,000

B 協賛 ¥50,000

C 協賛 ¥20,000

お問い合わせ

三条いか協会

〒955-0081 三条市東裏館2丁目2-16

0256-33-0616 (須藤凧屋 内)

公式 HP <https://www.ikagassen.com>

川口商事株式会社



SANJO : ECHIGO : JAPAN
六角巻 越後三條
新瀉県伝統工芸品認定品
須藤 風屋
六代目 須藤 謙一
〒955-0081 新潟県三条市東裏館2丁目2-16
TEL : 090-3223-3243
HP : <https://sудоikaya.jp>
●お客様のご要望にお答えします。ご相談ください。

石黒内科医院

三条市西裏館1丁目10-46

TFL : 0256-32-4970

インターネット・ケーブルテレビ・電話

NCT

0120-080-009

www.nct9.co.jp



NCTコネクト配信中!!



私たちのステージは世界。
卓越した先進の技術でお応えします。

SANJO

株式会社 三條機械製作所

〒959-1151 新潟県三条市猪子場新田1300番地

Tel 0256-45-3131(代) Fax 0256-45-5017

www.sanjokikai.co.jp

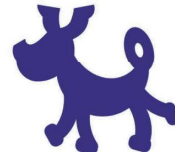


お客さまの
笑顔のために

さんしん 三条信用金庫
<http://www.shinkin.co.jp/sanshin/>



無形から有形の総合製造のハイオンア



株式会社 ヤマト工業

〒955-0832
新潟県三条市国江町4丁目17-19
TEL 0256-35-8288 FAX 0256-35-8290
HP : <http://yamato-ind.co.jp/>



つながる心 はばたく未来

はばたき信用組合

<https://www.habatiki-shinkumi.jp/>

物品協賛



三条風合戦情報誌 イカマガジン 創刊号 発行日 2024/04/20

編集・発行 / 三条風協会 企画広報部 Tel.080-4057-1012

director. 結城靖博 writer/photographer 齋藤 恵 大岡翔

編集後期

例年通りの「協会だより」から今回のイカマガジンへ仕様を変更したのは、風合戦関係者だけでなく、一般の方に届く媒体にしたいという想いがありました。年間の事業だけでなく、今残しておきたい三条風合戦の魅力が伝われば嬉しいです。(太田)

Sanjo Graphic & Media Supporting
nsatsu 三條印刷株式会社

超抗菌銅繊維フィルターマスク
 × 銅繊維を編み込んだ次世代マスク

燕三条の最新技術

抗菌 抗ウイルス
 ウイルスブロック 肌にやさしい
 冷却 防臭

株式会社 **ナガオカ・リコー**
 〒955-0081 新潟県三条市東裏庭 2丁目 17 番 15 号
 TEL: 0256-34-5121 FAX: 0256-35-8020

ナリモト工業株式会社

シノコ 測定株式会社

川口工器株式会社

祝 令和6年度 三条風合戦

作業用工具・理美容具製造メーカー

株式会社 **マルト長谷川五匠所**
MARUTO HASEGAWA KOSAKUJO INC.

〒955-0831 新潟県三条市土場 16 番 1 号
 Tel. 0256-33-3010 / Fax. 0256-34-7720
<https://www.keiba-tool.com>

KAKUMI

三洋産業株式会社

自動車工具 & 舶用金物

STAR SANYO

新潟県三条市石上 2丁目 1-36

野崎貴実税理士事務所

all point 株式会社
Hogure オールペイント コグレ

料理

と西楼

日本料理

更長

餛飩 餛飩 餛飩 お、乃

ツルタボルト株式会社

皇室御買上(第23回植樹祭行幸)
 第19回全国菓子大博覧会・高松宮総裁賞受賞

六角風サブレ

未来の味をクリエートする
ヤマト

金属部品の複合切削
 素材調達からユニット組立まで

カエリヤマ
KAERIYAMA CO.,LTD.

株式会社カエリヤマ
 三条市福岡292番地
 TEL: 0256-46-2011

中山鉄工所

中山 隆

〒955-0033 新潟県三条市西大崎 1丁目 28 番 12 号
 TEL (0256) 38-6 2 8 4
 FAX (0256) 38-6 4 1 2

祝 三条風合戦

新潟の地を通信で結ぶ

藤島無線工業(株)

本社(長岡)・新潟営業所・三条支店
<https://www.fmkc.co.jp>

イカマガジン創刊号 二〇二四年四月二〇日発行

編集・発行 三条風協会企画広報部

Tel. 080 (4057) 1012



株式会社 高儀

きれいな地球で暮らしたい。

TOYAMA
GROUP

外山産業グループ



ヤマト工業株式会社